

美しく輝く 水辺と心を育むまち

かわべ

なんとなく 居心地のいいまち

すいこまれるような青色が美しいダム湖。

ダム湖に映る、緑萌える米田富士。

この景色とともに生きる川辺町には、

穏やかで温かい時間が流れています。

かつては筏流^{いかだ}しで活気ついた飛驒川。

マリンスポーツに人々が集う漕艇場。

歴史ある寺社と代々伝えられてきた祭り。

まちを支えるさまざまな産業。

そして、このまちをこよなく愛する人々。

時の流れと共に変わってきたものと、

昔からずっと変わらないもの。

その両方ともが、まちにとけ込み人に愛され

新たな魅力を生み出しています。

そんな川辺町は、

なんとなく居心地のいいまち。

ほっと落ち着ける雰囲気このまちを守り、

未来へと受け継いでいきます。

02 プロローグ

ようこそ

ボート王国「川辺町」へ

05 歳時記

自然と四季

07 産業

明日を拓く力

09 川辺町の歴史

ザ・川辺グラフィティ 前編

後編

13 全域マップ

主要施設・観光スポット

水と緑の
オープンスペースかわべ

15 川辺のまちづくり

「福祉」

「教育」

「生活環境」

「防災・安全」

「行財政」

CONTENTS

川辺町の中心を南北に流れる飛驒川は
満々と水をたたえたダム湖。
ここは、年間を通じて波も風もほとんど無く、
好条件を備えた理想的な漕艇場です。
この恵まれたボート環境を求めて、
多くの選手やチームが練習に訪れます。

ようこそ ボート王国 「川辺町」へ



あり、競技の楽しみや喜び、醍醐味を学び
ます。子どもたちは皆、水が大好き。水に
入ることも、ボートを漕ぐことも、水辺の
生き物を観察することも、大人よりずつ
と楽しんでいきます。そして、自然に恵まれ
たふるさとの素晴らしさを肌で感じてい
ます。

ダム湖とボート、 「オアズマンシップ」とともに

ダム湖で行われる活動の一つに「ダム
湖クリーンアップ作戦」があります。美し
いダム湖とマリンスポーツの活動を守る
ため、地元子どもから大人まで、さらに
漕艇場を利用する高校生・大学生たちも
たくさん集まり清掃活動を行います。

ボート競技には、スポーツマンシップ
に準じた「オアズマンシップ」という言
葉があります。これは、ルールとマナー
を守り選手や運営スタッフに敬意をは
らうフェアプレイ精神であり、ベストを
尽くし、ボートを愛する精神です。この精
神は、競技だけでなくダム湖の清掃活動
など、ボートに関わる全てのことに生き
ているのです。

これからも、まちの宝であるダム湖を
美しく保ち、マリンスポーツに親しむ人
が一層増え、活気溢れるまちであること。
そのために川辺町に暮らす人々とボート
のクルー、ボートに関わる人々が心を一
つに漕艇場とともに歩んでいきます。



川辺町の自然とダム湖、そして ボートに魅せられて

太陽の光を浴び、水面がキラキラと輝く
川辺漕艇場。緑萌える米田富士に見守られ
ながら、今日も何艘ものボートが水面を滑
っていきます。ボート競技は、ゴールまで
いかに速く漕ぎきるかを競うスポーツ。厳
しいスポーツだと思われがちですが、一
度ボートに乗れば、人はその魅力に引き
込まれていきます。ボートから見える普
段と違う目線からの景色、風と水を切っ
て艇が滑る感覚、そして水面を駆け抜ける
爽快感。どれもが素晴らしく、また乗ら
ずにはいられないのです。

ボート王国・川辺町の礎は 水と仲良しの子どもたち

シーズン中のダム湖は、毎日のように
近隣の学生や団体がボートの練習に訪
れ、活気に溢れています。特に夏は「マリ
ンスポーツフェスティバル」や町民参加
の「一大イベント」ふれあいレガッタ」、ボ
ート競技の各種大会など、さまざまな行事が
催され、町はまさに「ボート王国」です。

また、ボートの町・川辺町では、学校の授
業の一環としてマリンスポーツに親しむ
ことができます。小学校高学年はカヌー体
験で水に慣れ、中学生は初心者でも乗り
やすいナックルフォアに挑戦。さらに中
学校には県内中学校で唯一のボート部が



冬のダム湖

Winter

張りつめた空気の中、美しく雪化粧をした米田富士は、とても幻想的です。冬の川辺町は、穏やかに落ちて着いた霧開気に包まれます。



成人式

駅前イルミネーション



豆まき



もちつき



沛王面



阿夫志奈神社祭礼



桶かきまつり



酒買いの儀式



太部古天神社祭礼



桜と米田富士

Spring

川辺町に春の訪れを告げる祭り。町内の各神社で催される伝統ある祭りは、「五穀豊穡」「無病息災」「繁栄」を願う、どれも特色あるものばかりです。祭りを桜が彩り、町を春の陽気が包みます。

美しい川辺の自然と四季を紹介します。

The four seasons of KAWABE

自然と四季

川辺町は、岐阜県美濃地方の南北に飛騨川が流れる町です。飛騨川の両岸に開けた平地気候は比較的温暖で過ごし美しい自然風景や行事を楽しむ

ほぼ中央に位置し、町の中央を町の約七割を山林が占めており、人々が生活を営んでいます。やすく、四季の移ろいととも、ことができます。

Autumn

田の稲穂が重たそうに頭を垂れ、山々も赤や黄色に染まります。爽やかな秋、スポーツの秋、芸術の秋：町は様々な催しで活気づきます。



ふれあいまつり



町民運動会



春日神社



ふれあいレガッタ



Summer

夏はマリンスポーツの季節。川辺ダム湖は、ふれあいレガッタをはじめ、ボートの練習や様々なイベントで賑わいを見せます。



川辺おどり花火大会



下麻生水神祭礼



マリンスポーツフェスティバル



ホタル

かわべ夢広場

ショッピングセンター

ピアゴ川辺店

町内の大型ショッピングセンターです。毎日、多くの町民が買い物に利用し、豊かな食材等で生活を支えています。



産業用機能部品製造

大洋技研工業(株) 岐阜事業所

ガス、燃料用機能バルブ、フィルター及びポンプの設計、製造。海外にも拠点を置くグローバル企業のマザーファクトリーです。



製紙加工

大豊製紙(株)

古紙使用による100%リサイクルで、段ボール原紙を製造・販売しています。リサイクルを主として、環境保護にも積極的に取り組んでいます。



空調機器製造

東プレ岐阜(株)

自社開発のファンを内蔵した空調製品として、一般住宅換気システム・半導体工場・病院向けクリーンユニット製品の設計と製造を行う企業です。



総合製紙メーカー

大王製紙(株)洋紙製造部

新聞用紙や出版用紙、家庭紙など、あらゆる紙の製造・販売を行う国内有数の総合製紙メーカーです。



農産物・特産物直売所

(株)川湊の里

川辺町内で採れた新鮮な農産物やその加工品、町内とその周辺地域の特産品などが販売されています。



複合材製品製造

天龍コンポジット(株)

新幹線車両の内外装部品を始めとした各種複合材(強化プラスチック)製品の設計製造で高い国内シェアを誇るメーカーです。



商業事業者支援

川辺町商工会

中小企業の支援・相談窓口など、業種に関わりなく総合的な活動を行い、町内の事業と地域の発展を支えています。



町内では、施設園芸などの付加価値の高い農業が行われています。特にイチゴのビニールハウス栽培やしいたけの原木栽培、花卉栽培などが発展してきました。野菜栽培が盛んな特徴を活かして地産地消をより一層進めるとともに、健全な農業を守るために、農業用施設や農道の維持管理、次世代の後継者の育成に取り組んでいます。町の特産品としては、地酒やみりん、和菓子、地元産野菜を使った漬け物などの加工品が知られています。特に、創業100年を越える蔵元の日本酒、江戸時代から変わらぬ製法を守るみりんは、町内だけでなく多くの人に愛されています。

明日を拓く力

人々の生活を支える川辺の産業をご紹介します。





縄文時代から続く人々の営み

川辺町の生い立ちは、縄文時代にまで遡ります。川辺町一帯は、河岸段丘上で日当たりが良く、食物・飲料水が得やすいことから人の定着が始まったと考えられています。町内の各地から縄文式土器をはじめ、石器類が数多く出土しています。さらに、町内で合計九基の古墳が発見されており、小国家体制の成立がうかがえます。

飛鳥・奈良時代の川辺には、京都と飛騨・国府を結ぶ飛騨路が整備され、加茂駅が置かれていました。飛騨路のおかげで都の進んだ文化がいち早く伝わり、大宝律令(701年)も早くから周知されていたようです。

下麻生網場は、木曾川筋の錦織(八百津町)・長良川筋の長良(岐阜市)と共に三大網場と言われ、町は小江戸と呼ばれるほど発展していたといえます。大正11年11月、当時の国鉄高山線の開通により、材木の運搬が自動車で行われるようになり、活気のあった網場は次第に賑わいをなくしていきました。

川辺ダム・川辺発電所の建設

昭和13年、川辺町内の飛騨川に発電用ダムが建設されました。この川辺ダムは、飛騨川本流にある13のダムの最下流に位置します。ダムの完成により、流れの激しかった飛騨川は静かなダム湖となり、後に漕艇場として利用され、ボート競技のメッカとして賑わうようになりました。

しかし、逆に失ったものもありました。ダムの完成により筏流しはできなくなり、活気のあった下麻生網場も今は静かな湖の底に沈んでいます。網場はな



中川辺(昭和初期)

さらに平安時代中期の資料には、加茂郡内の郷に「川辺郷」の名と、大きな神社として太部神社(比久見)と阿夫志奈神社(上川辺)の記載が見られます。このことから飛騨川の両岸に集落があったことが想像できます。

米田富士に城があったころ

室町時代になると各地に山城が築かれ、武士の世の中になります。川辺町のシンボル・米田富士(愛宕山)には肥田玄蕃允軌休という武士が城を構え、この付近を治めていました。また、稲葉一族が築いたといわれる下麻生城、中川辺には八坂山城が存在していたことが調査によりわかっています。

下麻生に栄えた網場

江戸時代の川辺町は11の村に分かれていました。(村名は、上川辺村・石神村・中川辺村・西栃井村・鹿塩村・下川辺村・福島村・下飯田村・比久見村・下吉田村・下麻生村。)

その中の下麻生村には、室町時代から網場がありました。陸運が未発達だった時代、飛騨地域の良質な材木を都へ運ぶために、飛騨川の水運が利用されてきました。1本ずつ流れてくる材木に綱を通して束ね、材主ごとに集めて筏を縫い下流へと流す場所が「網場」で、下麻生は最適な場所だったのです。

飛騨川と橋

川辺町は、町の中心を飛騨川が流れる川の町です。大正時代まで、川辺の人々の交通手段は徒歩や舟、馬車を中心で、飛騨川を渡るためには渡し船しかなかったのです。上流から順に、吉田渡し、椿渡し、栃井渡しがありましたが、大水の時は渡しができないうちもありました。

明治33年ごろ、第1号の橋「飛騨川橋」が下麻生→下吉田間に架けられました。次に、下川辺から下米田へ渡る「青柳橋」が、さらに大正12年、町内で肥料店を経営していた山本鎌次郎氏の多額の寄付により、椿渡しのところに吊り橋が完成。この橋は、山本氏の「山」と飛騨川の「川」から「山川橋」と名付けられました。

村から町へ「川辺町」の誕生

川辺町という名前が生まれたのは、明治30年のことです。その少し前の明治22年、この地域に11あった村々が合併し、川辺村・麻川村・上米田村の3つの村になりました。さらに明治30年、川辺村と下麻生村から分村した上川辺村が合併し「川辺



流木の網どめ

筏流しの梶

官材調査の検査委員



筏とともに、薪や物資も運ばれた

明治時代初期からは、それまでバラバラに仕事をしてきた人々が「組」を作り、協力して材木を運ぶようになりました。「三鱗組」という名で知られたこの組は、後に株式会社となり網場の発展に貢献。

町」の名が誕生したのです。

その後、川辺町は、戦中・戦後の厳しい時代を乗り越え、昭和29年に三和村から分村した鹿塩地区、昭和30年に上米田村、昭和31年に下麻生町下麻生地区と合併し、現在の町のかたちになりました。



初代「山川橋」(大正12年竣工)



山川橋(昭和12年竣工時)

昭和	大正	明治	明治	江戸時代	安土・桃山時代	室町時代	平安・南北朝時代	奈良時代	飛鳥時代
<ul style="list-style-type: none"> ● 昭和12年 ● 山川橋架け替え(コンクリート製) ● 昭和13年 ● 川辺ダム・川辺発電所竣工 ● 昭和16年 ● 太平洋戦争勃発 ● 飛騨川橋改築(下流式鋼橋) ● 昭和20年 ● 終戦 ● 昭和29年 ● 鹿塩地区が三和村から分村合併 ● 昭和30年 ● 上米田村と合併 新川辺町誕生 ● 昭和31年 ● 下麻生町下麻生地区と合併 ● 現在の川辺町の区域となる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大正3年 ● 川辺郵便局に電話開通 ● 第一次世界大戦 ● 大正11年 ● 高山線が下麻生まで開通、中川辺・下麻生駅開業 ● 大正12年 ● 旧山川橋竣工(木製吊り橋) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治30年 ● 川辺村と上川辺村の合併により川辺町誕生 ● 明治33年 ● 旧飛騨川橋竣工 ● 明治44年 ● 下麻生郵便局で電話交換業務開始、岐阜県下で初めて名古屋との直通電話を開設 ● 明治29年 ● 下麻生村が下麻生町になる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治5年 ● 地域で初めて小学校が開校(文明学校) ● 明治7年 ● 下麻生郵便局開局 ● 明治8年 ● 川辺郵便局開局 ● 明治22年 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治元年 ● 明治維新 ● 明治4年 ● 廢藩置縣により岐阜県設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1573年「天正元年」 ● 稲葉彦六・下麻生城に入る ● 1582年「天正10年」 ● 加茂山城主・肥田氏の勢力下に ● 1707年「宝永4年」 ● 納古山の山論勃発 ● 1729年「享保14年」 ● 下川辺に高山代官所出張所設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1528年「享祿元年」 ● 下麻生網場設置 ● 1560年「永祿3年」 ● 肥田玄蕃允軌休、米田城を築く ● 1565年「永祿8年」 ● 泉神社創建 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1350年「観応元年」 ● 中川辺に八坂山城を築く ● 1528年「享祿元年」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 713年頃「和銅年」 ● 飛騨路開通、加茂駅設置 ● 818年「弘仁9年」 ● 式内神社「阿夫志奈神社」創建 ● 1185年「文治元年」 ● 「川辺庄」「米田庄」の地名があったとされる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 649年「天化5年」 ● 美濃国・飛騨国ができる ● 702年「大宝2年」 ● 各村々ができる(下麻生、駅家など)

川辺町年表 前編

川辺町の歴史を振り返る ザ・川辺グラフィティ THE KAWABE GRAFFITI 川辺町合併～現在

後編

充実する生活基盤

昭和31年、松岡品三郎町長のもと新体制となった町は、まず都市基盤の充実をはかりました。公民館や保育所・町営住宅の建設、道路・林道の整備など、暮らしやすいまちづくりが進められました。

道路の移り変わり

もともと、飛騨路の一部が2級国道155号線として町内の主要道路の役割を果たしていましたが、砂利道で道幅も狭く、車がすれ違うことも大変な道でした。これに代わる主要道路として一般国道41号が全線開通したのは、昭和40年のこと。岐阜県内の山間部は難工事でしたが、愛知県・岐阜県・富山県を結ぶ重要幹線道路が完成し、長距離トラックをはじめとして、多くの自動車が行き来するようになりました。

さらに、昭和58年に国道418号と新山川橋が竣工、平成6年に国道418号川辺バイパスが完成し、関・美濃加茂方面への通行が便利になりました。平成21年には、国道41号美濃加茂バイパスが開通、岐阜・名古屋方面へのアクセスも良くなりました。



昭和32年 消防団による機動連合演習の風景



昭和40年 一般国道41号線が町内に全線開通

生まれ変わる橋

町内の飛騨川に架けられた4本の橋。これらは東西の交通はもとより、文化圏の架け橋でもあります。架けられた当初は吊り橋や木製の橋でしたが、それぞれ改修・架け替えを繰り返して現在まで人々の生活に重要な役割を果たしています。



昭和58年 新山川橋完成

昭和12年に吊り橋だった山川橋が現在のものに架け替えられ、昭和40年代以降には飛騨川橋、川辺大橋、新山川橋が相次いで完成しました。さらに平成22年には山川橋が欄干の付け替えや照明灯の設置などの改修を終え、今日まで町民の生活の大きな支えとなっています。

風水害との戦い

町の中心を飛騨川が流れる川辺町は、しばしば水害に悩まされてきました。古



昭和43年 8.17災害による被害

い記述では、寛政10年(1798年)に飛騨川の大水によって下麻生・栃井に被害が出た、という資料が残っています。昭和34年、戦後最大といわれる伊勢湾台風が東海地方を襲い、愛知県・三重県に次いで岐阜県も被害を受けました。川辺町も死者こそ出ませんでした。川半壊家屋170戸という大被害を被りました。さらに、同36年の台風18号、「飛騨川バス転落事故」を引き起こした同43年の「8・17災害」では、住宅全壊・半壊などの大きな被害ができました。

町のイベント

昭和半ばごろから、地域の活性化を図ろうと町民参加のレクリエーションが生まれてきました。昭和46年に第1回町民運動会を開催。以後、毎年町内12地区の地区対抗で開催され、老若男女問わず地域の絆を深めるイベントとなっています。



昭和46年 第1回町民運動会の風景



平成5年 「かわべ夢広場」完成

ます。さらに昭和55年以降、川辺おどり花火大会、産業文化祭(現在の川辺ふれ愛祭り)が始まりました。これらは現在に至るまで多くの人に支えられ、愛されているイベントです。

また、昭和60年頃から体育指導委員や体育委員などボランティアの方々を中心となり、野球やバレーボールなどのサークル活動がさかんに行われるようになりました。

ダム湖との共生「ボート王国がわべ」

川辺ダムの誕生によって生まれた川辺ダム湖は、満々と水をたたえ、年間を通じて風と流速が少ない絶好の漕艇場です。昭和45年に第1回全日本女子選手権競漕大会の会場に抜擢。翌年の第2回大会は、秩父宮妃殿下がご観戦されました。以後、ボートの各種競技会が多数開催されています。



平成22年 「山川橋」改修工事終了



しんで育ちます。シーズン中のダム湖は、競技会のほかにも町民参加のイベントが行われたり、周辺の高校、大学、社会人のボート部が練習に来るなど、いつも活気に溢れています。

さらに、まちづくりの核としてダム湖周辺の整備が進められ、湖岸遊歩道や公園は町民の憩いの場となっています。

平成	昭和	昭和
<ul style="list-style-type: none"> ●川辺小学校 ●川辺中央公民館竣工 ●昭和58年 ●新山川橋竣工 ●昭和59年 ●川辺北小学校竣工 ●小中学校校名変更 ●山楯公園グラウンド竣工 ●昭和56年 	<ul style="list-style-type: none"> ●川辺東小学校 ●川辺町中央公民館竣工 ●昭和58年 ●新山川橋竣工 ●昭和59年 ●川辺北小学校竣工 ●小中学校校名変更 ●山楯公園グラウンド竣工 ●昭和56年 	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和34年 ●伊勢湾台風が東海地方を襲う ●昭和36年 ●台風18号による被害 ●昭和40年 ●国道41号川辺町内全線開通 ●昭和41年 ●飛騨川橋竣工(鉄橋に改修) ●昭和42年 ●川辺小学校新校舎竣工 ●昭和43年 ●集中豪雨による被害甚大(8・17災害) ●川辺町章を制定 ●昭和44年 ●学校給食センター竣工 ●昭和45年 ●第一艇庫竣工 ●昭和46年 ●加茂消防川辺出張所発足 ●昭和47年 ●第2回全日本女子選手権競漕大会開催、秩父宮妃殿下ご観戦 ●昭和47年 ●白鳥ひつがいが皇居よりおこしいれ ●福島島の井上敏明氏、ミュンヘンオリンピックに出場 ●昭和48年 ●川辺大橋竣工 ●昭和49年 ●川辺町異常湧水、飲料水対策本部を設置 ●第10回全日本女子競漕選手権大会開催 ●昭和55年 ●川辺北小学校竣工 ●小中学校校名変更 ●山楯公園グラウンド竣工 ●昭和56年

川辺町年表 後編

かわべ TOWN GUIDE



自然景観



1 重ね岩
岩盤の上にもう1つ巨石が鎮座する不思議な岩です。町天然記念物に指定されています。



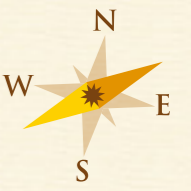
2 らくだ岩
飛騨川の流りに佇むらくだに似た形をした巨石です。七宗町の飛水峡に続く巨石群の中でも、その不思議な形が目を惹く岩です。

ゴルフ場



3 かしおゴルフ場
美しい山あいの丘陵地を活かしたゴルフ場で、戦略性に富んだ多彩な全18ホールがあります。

美濃加茂市
Mimokamo City



「水と緑のオープンスペースかわべ」

山と川の自然に恵まれたまち、川辺町。
町内には、訪れてみたくなる名所がたくさんあります。

川辺といえばボートのまち！
ボートのイベントも
たくさん行われてるよ！



旧跡



4 木の根橋歌碑
以前は栃井神社の杉の根が川にかかって橋となり、「木の根橋」と呼ばれていました。神社境内に、この橋を歌った歌碑が残っています。



5 米田城跡
戦国時代、米田富士の山頂にあった城の跡です。天正10年(1582)に落城し、今は礎石の一部や空堀の跡が残っています。



6 大谷八十八ヶ所
江戸時代から巡礼地となっていた八坂山を、大正12年に地元の信者が中心となり四国八十八箇所のお宝場に似せて作った巡礼地で、113体の石像が祀られています。



神社仏閣



7 太部古天神社
少彦名命と菅原道真を祀る神社。春の例祭では、2台の山車が参道を引かれ、江戸時代から伝わる「酒買いの儀式」も行われます。



8 阿夫志奈神社
弘仁2年(811)に、全国に疫病が流行したために建立されたと伝えられています。春の祭礼では、舞追男が獅子を手なづけるかけ合いが行われます。



9 県神社
県大明神を祀る神社で、山岳信仰の名残りをとめています。古い伝承に由来する「桶がわ祭り」が行われます。



10 虚空蔵菩薩堂
江戸時代に作られた美濃三虚空蔵のひとつに数えられる、極彩色の虚空蔵菩薩像が祀られています。菩薩像は年に一度、公開されます。

だれもが安心して暮らせるまち

少子高齢化が進むにつれ、暮らしを取りまく環境は大きく変化しています。保健・福祉サービスを充実させる一方、一人ひとりの健康管理意識を向上させ、皆が健やかで生き生きと暮らせるまちづくりを目指します。

川辺のまちづくり
福祉



高齢化が進む現代社会において、川辺町も65歳以上の方の割合が年々高くなり、福祉サービスのより一層の充実が求められています。町では、高齢者の方が健康に暮らすための健康づくり活動や健康管理・指導などのサポート、生きがい支援、安全で快適に移動できる道路の整備など、安心して暮らせるような環境を整えています。同時に、高齢者だけでなく障がいを持つ方にとっても暮らしやすい町であることが求められます。福祉サービスや就労支援などの充実を図り、障がいについて理解し合える社会をつくっていきます。

また、子育て支援として、安心して子どもを産み育てることができ、健やかに成長できる環境を整えています。保育サービスや健診の拡充、子育てをする親同士の仲間づくり・学習の場の創出、父親の積極的な子育て参加促進などを行っています。今後も、子育てに関する相談窓口の充実や、地域全体で子どもたちを育てる取り組みの支援など、求められるサービスの充実を図ります。

このようなまちづくりを、町民同士による助け合いや支え合いを原動力としながら、町民と一体となって積極的に進めていきます。

施策

妊娠・出産サポート

妊婦や胎児の健康と安心・安全な出産のために、妊婦健診受診票を拡充し、健康相談や妊婦学級を充実させるなど、安心して子どもを産めるまちづくりを進めています。



各種予防接種、健診



子どもの各種予防接種の受け方の相談から接種、乳幼児の検診・相談、ガン検診など、健康維持のための各種検診が充実しています。

介護予防事業



各地域で行われる高齢者のサロンの出前講座や、運動指導士・栄養士による指導と相談など、健康寿命を延ばすための助けを行っています。

中学生まで医療費助成

中学生まで医療費が助成され、県内の医療機関で窓口負担(保険適用分)が無料になる福祉医療費受給者証が交付されます。



歯科検診



11 やすらぎの家

研修室、和室、スタジオ、浴室などが設置され、サークル活動やリラクゼーションなど様々な用途に利用できます。また、川辺町社会福祉協議会事務室が置かれ、町の社会福祉の拠点にもなっています。



12 保健センター・地域包括支援センター

健康相談や保健指導、健康診査など、地域住民のための健康づくりの場、直接サービスの場です。また、地域包括支援センターは、高齢者の生活全般の相談窓口となっています。



西児童保育所

学校から帰宅しても保護者のいない町内各小学校児童が、放課後の時間を過ごす施設です。家庭支援と保護育成を目的に、健全な成長発達と児童の福祉の増進を図っています。



子育て支援センター

乳幼児とその親(家族)が自由に来て、親子で好きな遊びを楽しんだり、子どもや親同士の仲間づくりができる遊び場の提供と支援活動を行っています。



福祉バス

町内の主要施設を結ぶ福祉バスは、2コースを1日2回運行しています。誰でも無料で利用でき、町民の重要な交通手段となっています。



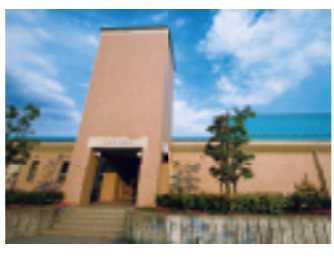
14 第3保育所

保育所 (第1～第3保育所)

0歳から6歳までの子どもを預かる保育所が3箇所あります。待機児童はなく、希望者はすぐに入ることができます。



15 第2保育所



児童館

多目的ホール、放課後児童クラブ室、図書ルームを備え、専属の職員とともに楽しく遊んだり、自分の好きな遊びや季節の行事に自由に参加することができます。



13 さわかナーシング川辺

社会福祉法人慈恵会が運営する特別養護老人ホームです。専門スタッフが常勤し、デイサービスなどの様々なサービスの拠点となっています。

16 第1保育所





まなびピア川辺

生涯学習の推進を図るイベントとして、毎年11月に中央公民館で開催されます。各サークル活動の成果発表や子どもたちの作品展、まちの先生の教室などに多くの方が参加します。

サークル活動



施策

社会人を中心に、体育系はバレーボールやバドミントン、卓球など、文化系は写真や絵画、俳句、手芸ほか、多種多様なサークルが活動しています。

まちの先生



土曜日、及び夏休み期間中、子どもたちの安全な居場所づくりと体験活動の場として「わくわく子ども教室」が開催されます。町内の各分野の名人が先生となり、着付けやクワガタ採り、トールペイント、料理、茶道、将棋などを教えています。



公民館講座

町民のみなさんに生き甲斐や生活の充実感、学ぶ楽しみを持ってもらうための講座です。様々な講座に、老若男女問わず多くの方が参加しています。



スポーツ少年団

小学生が軟式野球、サッカー、バレーボール、マリンスポーツなどのチームに参加し心身を鍛えています。



小・中学校

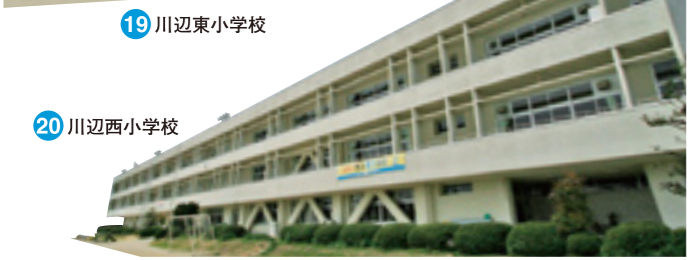
町内には小学校3校と中学校1校があり、児童・生徒が元気に学習・活動しています。



17 川辺中学校



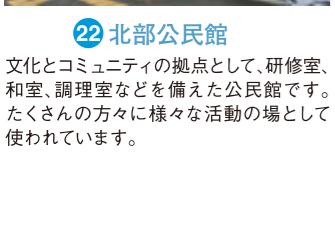
18 川辺北小学校



19 川辺東小学校

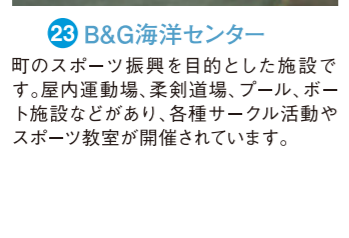


20 川辺西小学校



22 北部公民館

文化とコミュニティの拠点として、研修室、和室、調理室などを備えた公民館です。たくさんの方々に様々な活動の場として使われています。



23 B&G海洋センター

町のスポーツ振興を目的とした施設です。屋内運動場、柔剣道場、プール、ボート施設などがあり、各種サークル活動やスポーツ教室が開催されています。



中央公民館図書室

約20,000冊の蔵書があり、川辺ダム湖を望む眺望閲覧コーナーで快適に読書を楽しめます。無料で利用できるパソコンコーナー、文化財や公民館講座の作品などを紹介する展示コーナーもあります。



21 中央公民館

町の文化、コミュニティの中心地として各種研修、会合、コンサートなど様々な行事に活用されています。



山楠グラウンド

山楠公園内にあるグラウンドで、野球やソフトボールなど様々なスポーツ活動に盛んに使われています。ナイター施設も完備しています。



学校給食センター

厳しい衛生管理のもと、町内全学校の子どもたちに毎日美味しい給食を提供しています。

川辺町の子どもたちは、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒に育ってほしい。この願いから、学校・家庭・地域社会が一体となった開かれた学校運営に努めるとともに、国際化、情報化などの社会環境の大きな変化に対応できるように、教育内容や設備の充実を図っています。

現代の社会環境の急激な変化に伴い、自立の遅れや学習意欲の低下など、児童・生徒たちは様々な問題に直面し、「心のケア」や「心の教育」のさらなる推進が必要となっています。スクールカウンセラーなどの教育相談体制を充実させると同時に、判断力・自分を抑える意志・思いやりの心などを育む教育

を推進します。

学校以外でも、地域が一体となって青少年のボランティアや地域活動への参加を促し、個性を發揮しながら積極的に社会活動に参加できる場を設けています。

また、中央公民館と北部公民館を拠点に、気軽に参加できる「公民館講座」「サークル活動」「まちの先生」などの学習の場があります。従来からの生涯学習に加え、子育てや福祉、まちづくりなど身近な課題を解決し社会的生活を充実させる学習も活発になっていきます。

住民のニーズに応え、学びから生きがいと成長を得られる環境を整えます。

川辺町は、充実した教育設備と施策で、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を支え続けます。

川辺のまちづくり 教育

心も体も健やかに 成長でできるまち



便利で快適に暮らすことができるまち

”快適で元気に
住み続けられるまち、
心が豊かになれるまち”
であるために、
地域の良さを資源を再評価して
活かしていきます。

川辺のまちづくり 生活環境

川辺町は、豊かな自然とあたたかい人間性が魅力の、住環境に恵まれた町です。

生活に必要不可欠である上下水道の普及と災害に強いライフライン、広域幹線道路の整備など、地域の状況に配慮しながら、より一層の利便性を追求しています。

また、公園や遊歩道なども整備され、町民の誰もが気軽に利用できる憩いとふれあいの場が提供されています。これらを安全・安心に利用できる管理にも力を入れています。

自然の豊かな川辺町では、環境に対する人々の意識が高まっており、地域と企業、行政が一体となって、環境の向上と自然との共生を目指す取り組みが続けていきます。



下水道整備
町内のほぼ全域に下水道が整備され、清潔な生活環境が整っています。

レジ袋削減
川辺町は、県内でもいち早くレジ袋の有料化に踏み切りました。レジ袋の販売金は町内の環境事業に充てられています。

生ゴミ減量の取り組み
家庭の生ゴミ減量のために、ポカシやコンポストの販売、生ゴミ処理機購入の補助金などの取り組みを行っています。

ケーブルテレビ
町の情報化の推進や地上デジタルテレビの難視聴対策として、ケーブルテレビが整備されています。多様なチャンネルと、高速・安定速度のインターネットが利用できます。

U・Iターン支援
地元の雇用促進や事業後継者の創出などのため、町内の事業所に勤務しUターン・Iターンなどにより町内に居住する方に奨励金の支援を行っています。

ゴミ収集
可燃ごみは週2回(月・木/水・土)、そのほか不燃ごみなどもエコステーションとの並行利用によって収集を行っています。



25 国道41号美濃加茂バイパス
美濃加茂市太田町から川辺町石神を結ぶ美濃加茂バイパスの開通により、名古屋・岐阜方面へのアクセスが向上しました。



26 国道418号
新山川橋を通り、東は八百津方面、西は関・美濃加茂方面へのアクセスに利用されています。



27 東海環状自動車道
町の南端を通る東海環状自動車道により、東濃、三河方面へのアクセスが向上しました。



28 山楠公園
野球場のほか、展望台や遊歩道があり、町民の憩いの場となっています。



町営住宅

町が管理する住宅です。西タウンと東タウンを合わせて126世帯が入居できます。



29 湖岸遊歩道

ダム湖を望む一周約3kmの遊歩道です。ウォーキングやジョギングに利用できるほか、ボートなどマリンスポーツの見物にも良い場所です。



30 中部電力川辺ダム・発電所

飛騨川の最下流にある川辺ダム発電所は、総貯水量14,492千m³、最大出力電力3万kWの水力発電所です。



バイオマス発電所

森林整備により発生した廃材を燃焼させてタービンを回し発電する、環境に優しい発電所です。ここで作られる電力は隣接する製紙工場で使われています。



エコステーション

町内2箇所に設置されています。ペットボトルや食品トレイ、牛乳パック、乾電池などの分別回収をする拠点です。



上水道(山楠水道施設)

白川町から取水した飛騨川の水を、町内全域の上水道に供給しています。



31 JR東海 高山本線

飛騨川、国道41号と並行して走る高山本線。町内には中川辺駅と下麻生駅があり、通勤や通学などに利用されています。



24 山川橋

昭和11年に架け替えられた山川橋。平成21年の改修により、有効幅員の拡大、耐震補強、欄干の付け替え、照明灯の設置が行われ、生まれ変わりました。



事故や事件、火災、自然災害などの危険から命と財産を守り、災害に強いまちづくりを進めています。

安全で安心して暮らせるまち

近年、全国各地で地震や集中豪雨などの自然災害が多発しています。また、凶悪な事件も起こっており、地域の防犯・安全に高い関心が寄せられています。

川辺町では、いつ何時起こるかわからない災害から町民の皆さんを守るために、地震防災対策を総合的・計画的に進めています。

総合防災訓練の開催などにより町民の防災意識が向上する中、今後も、地域主体の訓練や自主防災組織の設立を促すなど、一層の向上を図る必要があります。さらに、非常時における上水道

などのライフラインの供給、防災行政無線の更新や災害情報ネットワークの充実にも努め、災害に強い安全な町を目指します。

町民の犯罪への不安を小さくし、安全なまちを作るために、「町では「自らの安全は自ら守る」という防犯意識が高まっています。

174名が所属する川辺町消防団の活発な活動をはじめ、地域ごとに自主防犯組織が設立され小学生の登下校時にパトロールを行うなど、地域ぐるみで犯罪を寄せ付けない安全なまちづくりが行われています。

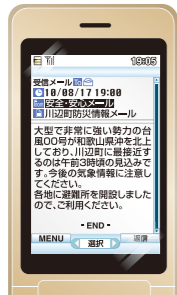


消防出初式



子ども110番の家

町内の100軒以上の方の協力を得て、子どもたちを犯罪から守るための駆け込み場所を提供しています。



安全・安心メール

児童生徒や町民のみなさんの身に危険が及ぶと思われる防犯情報(不審者情報)や、地震・台風など発生時の防災情報(緊急災害情報)を携帯電話やパソコンに無料で配信しています。



防災ハザードマップ

町内の防災ハザードマップを作成し、危険箇所の把握・周知に努めています。



防災備蓄倉庫

災害時のために、町内4箇所、食料・飲料水、担架やヘルメットなどの救助物資が備えられています。



川辺交番

加茂警察署川辺交番は、町民のみなさんが安全に安心して暮らせるまちづくりに貢献しています。



可茂消防川辺出張所

可茂消防事務組合の川辺出張所です。火事や災害などの際は緊急出動し、町民のみなさんの命と財産を守ります。



交通安全協会

加茂交通安全協会川辺支部の会員が、交通事故のない川辺町を目指し、交通安全の啓発活動やイベントの際の交通活動を行って来ます。



独居老人緊急通報装置

一人暮らしの高齢者の方に、緊急の通報ができる無線の発信器(ペンダント型)を無償で貸し出しています。



防犯灯

地域の要望に応じ、町内各地に防犯灯を整備し、安全な町を目指しています。



夜間巡回

子どもの非行防止と犯罪防止を目指し、町職員および町内の2団体が青色回転灯搭載車で夜間に見回りを行っています。



防災無線

風水害や地震などの災害、または災害が発生する恐れのある時など、的確な情報を住民のみならずに伝えるための無線です。町内22箇所、屋外拡声機を、各家庭には屋内個別受信機を設置しています。



消防団

174名の団員が、町民の生命と財産を守るために活動しています。出初式や操法大会では、勇壮な姿を見せてくれます。





第4次総合計画

町民のみなさんからのアンケートをもとに、平成24年度の将来像を定めています。



広報かわべ

毎月1回、町が発行する広報誌で、町の情報をみなさんに分かりやすく伝えられるように努めています。

タウンミーティング

幅広く町民の声・意見・要望を聴くため、テーマを定めて意見交換などを実施しています。



国の行財政改革以後、地方自治体の財政状況は厳しさを増しています。加えて地方分権、少子高齢化など、社会経済情勢の著しい変化への対応が求められています。町では、新たな行政課題や多様化、高度化する町民ニーズに対応するため、不断の見直しを行うと共に、簡素で効率的な行政システムづくりを進めます。

まちづくりには、町民の参加が欠かせません。様々な課題に対し町民が主体的に取り組み、行政と共に解決を目指すしたり協働によるまちづくりへの新たな仕組みや受け皿をつくること重要です。

川辺町では、相互扶助の精神に基づいた自主的で健全なコミュニティが存

手をとりあって みんなが輝く まちづくり

川辺のまちづくり
行財政

より透明で信頼される
町政運営をめざします。



33 川辺町役場

昭和62年に完成した3階建ての庁舎で、町長をはじめ町職員が行政事務を行っています。

在し、住民が自主的に参加する活動が活発に行われています。コミュニティは、防災・防犯をはじめとした地域の課題解決のためにその重要性が見直されています。町ではこれらの積極的な活動を支援するとともに、意識の啓発に努めます。

町議会

議会では、町の予算や条例、町政運営のあり方などが審議され、町の進路が決定されます。より住みよいまちになるよう、幅広い問題に積極的に取り組んでいます。





川辺町長 佐藤 光宏

美しく輝く 水辺と心を 育むまち

川辺町はその名のとおりに、「川のほとり」のまちです。岐阜県のほぼ中央に位置し、人口1万1千人、総面積42平方キロメートルの三分の二を山地が占める豊かな水と緑に恵まれたまちです。町の中央部を飛騨川が南北に流れ、悠久のときを刻みます。人々は古くから川とともに生きてきました。

飛騨川の両岸に開けた川辺町は、飛騨街道の宿場として栄え、かつて川を利用

した運材が盛んで、下麻生の綱場跡にその栄華を偲ぶことができます。しかし、山麓を走る高山線の開通、昭和13年の川辺ダム竣工により、水運から陸運へと移行し、飛騨川の様相は一変しました。せき止められた水流はほぼゼロとなり、岸を覆う竹木が風を緩衝し、水面の波を抑えましました。ボート競技には絶好の条件が生み出され、全国でも1・2を争うレース場として、時代にふさわしく生まれ変わったのです。ボート競技振興を図りながら、まちづくりがすすめられました。「ボート王国かわべ」の名のもとに、来たる2012年(平成24年)に開催される、ぎふ清流国体ボート競技会場として整備がすすめられています。

平成17年には東海環状自動車道、平成21年には国道41号美濃加茂バイパスの開通により、飛躍的にアクセスは向上し、広域的な観光や産業の振興、地域の活性化に寄与するものと期待されています。第4次総合計画における、まちの将来像を「美しく輝く 水辺と心を育むまち」と定めました。豊かで美しい自然を次世代へと引き継ぎ、健康で幸福な生活を享受すること。町民の心も美しく輝いてほしいと願っています。自然と調和のとれた潤いと活力あるまちを目指して、全町民が一体となって取り組んでいきます。

町民憲章

私たちは、豊かな水と緑に恵まれた川辺町の町民です。
私たちは先人の遺業に感謝し誇りをもって
明るく住みよい町づくりをめざしこの憲章を定めます。

- 1. 体力づくりに努め明るい家庭をつくります。
- 1. 常に学ぶことを忘れず、豊かな教養を身につけます。
- 1. 創意と工夫をし、夢と希望をもって生活します。
- 1. 自然を愛し、安全で住みよい町をつくります。
- 1. 心のふれあいを大切に、潤いのある郷土をつくります。



町章



町の花/サツキ



町のキャラクター
ぼ〜とん君